学位プログラムDPレビュー

2022年度　看護学科

1.現況の説明

①　授業実施評価レポート

看護学部看護学科の学生を対象とした成績評価アンケートの結果では、おおよそ9割の学生が客観性、妥当性、公平性が不足する科目はないと回答しており概ね良好であった。全ての項目において不足を感じている学生の多くは一つか二つの科目で、その傾向があったとあげており、不足する科目がいくつもあると感じている学生はいなかった。しかし、学年別にみると、不足する科目がないと回答したものが90%に満たなかった項目は、1年生1項目、2年生1項目、3、4年生は90%に満たなかった項目はなく、学年が低い方が成績評価に疑問をもつものがやや多い傾向があった。検討の結果、全体的には良好な回答結果であることから、大きな問題はないと判断された。自由記述において、評価基準の度重なる変更やシラバスとの相違など関する記述があった。シラバスに評価方法を詳細に記載し、さらに提示した評価方法の担保および変更時は丁寧な説明の実施を徹底することを伝える必要がある。

成績分布については、専門基礎科目および専門科目ともに、A評価が最も多く、次いでS評価、B評価C評価の順で、不可、未受験および無資格は合わせて若干数であった。学科全体でみれば一定のバランスが取れていると判断した。一方、演習・実習科目を除き、成績 Sが2/3 を超えた科目は1科目、成績Sが0名の科目は4科目あり検討を行った。Sが2/3 を超えた科目とSが0名の科目はともに、2020年度の9科目より減少しており、シラバス作成時に各担当教員に対して、評価方法について、再整理や見直し依頼をした結果であると考えられた。そのため、特に問題ないと判断し、引き続き、シラバス作成時に評価の見直しのお願いをすることとした。

受講者数について、受講者がいなかった科目は4科目で、これらの科目は2020年度も受講者がいなかった。また、受講者が9名以下の科目は4科目で、受講者が少ない状況が継続している状況であった。検討の結果、2020年度と同様に、看護学部は必修科目が多く実習期間も長いことから、これらの選択科目を受講する余裕がない、希望があっても受講できない、学生が必要性を感じていないなどの原因が考えられた。2022年度から開始された新カリキュラム中で、科目の再編や内容検討を行った上で、時間割の見直しを行っている。

②　DPアンケート

DPアンケートの結果は、全項目の平均値は4.7であり、各項目の平均値は 4.5～4.7で、比較的高い傾向が示された。学生は4年間を通して看護の専門職者として必要な能力を身につけたことを実感しており、学習の成果について一定の評価が得られていると考えられる。これは、ほぼ本学科のDPを満たすことができていると評価できる。

③　進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生の進路としては、就職率100%であり良好であると言える。留年は3名である。看護学科の留年者数が過去2年度は10人で、4年次学生の約1割を占めていたが、2021年度は大幅に減少した。アドバイザー教員による粘り強い指導に加え、学生への精神的支援に専門性を有する教員を令和3年度から各学年担当に配置（メンター制度）したこと等が、留年者を大幅に減少させる結果につながったと考えられる。なお、令和2年度卒業生の入学時からの退学者は0名であった。

資格試験の合格率は看護師98.9%、保健師90%であった。看護師はと全国平均の96.5%を上回った。しかし、保健師は全国平均93%を下回った。これは、受験者数10名と少なく、1名の合否が合格率に大きく影響した結果であると考える。

主な就職先は就職先については、病院・医療施設が65名、官公庁等（保健師）が8名、教員（養護教員等）11名で、大学院等への進学が7名であった。また、就職・進学未決定者が2名であった。本結果は、学生本人が希望し選択した就職・進学未決定者2名を含むが、看護学科の社会や対象が抱えている健康上の問題の本質を多角的視点から思考・判断しながら、多職種と協働し、諸課題に対して適切な看護が選択できる看護専門職者を育成するという目的と概ね一致していると考える。

一方で、2021年度の退学者数は1～3年次で5名で、過去2年度と比較し倍増した。進路生活支援部会からは、従来と異なる傾向として、2、3年生の退学者が多いことが指摘を受けた。これについて、本学科で検討をした結果、令和2年度以降の新型コロナウィルス感染症による授業形態の変更や生活状況の変化等を要因として、自身の健康状態（特に精神的健康）や進路への迷い等から授業参加が滞っていた（一部は休学）学生が、令和3年度に退学するに至った結果と考えられた。授業参加が滞っている学生や休学中の学生につき、本人の状態に配慮しつつ可能な範囲で大学との接点を維持することにより、不本意な退学を避けるための支援を継続していく必要がある。

2. 2021年度の対応プランの結果

2021年度は以下の２点について計画し対応した。

① 成績評価については、学生が評価内容や方法を理解できるように、担当教員に対して、シラバスの中でディプロマ・ポリシー毎に可能な限り到達目標や評価基準を詳細に記載するよう求めた。また、各授業の初回時、シラバス等を用いて評価方法等について、学生により詳しく説明し理解を促した。さらに、授業内や最終回に定期試験範囲、出題方法や対策を伝え、学生からの質問を受け付け、透明性と公平性を担保した。その結果、おおよそ9割の学生が客観性、妥当性、公平性が不足する科目はないと感じていた。今後もシラバスの詳細な記載と授業時の説明を継続していく。

成績分布に関しては、各担当教員に対して、シラバス作成時に科目の特性や目的および到達目標を鑑み、評価方法について、再整理や見直しの依頼をした。その結果、学科全体の成績分布は一定のバランスが取れているとともに、不可や無資格の学生が少ないという結果となった。また、受講者数の少ない科目については、可能な範囲で時間割の見直しや、年度初めのオリエンテーションで学生に対して科目の説明等を行った。しかし、受講者の増加には繋がっていないため、2022 年度から始まった新カリキュラムの中で科目の再編や内容検討を行ったため、今後の受講数の推移をみていく。

② 卒業時の学習成果について、学生は 4 年次まで到達すると、就職や進学が決まり、看護職として卒後時に必要な能力を身につけたと実感し、目指すべき将来像を描くことができていた。しかし、１～３年次の休学および退学が集中していたことから、低学年でのアドバイザー教員による対応強化に加え、学生への精神的支援に専門性を有する教員を各学年担当に配置（メンター制度）した。その結果、留年者を大幅に減少させる結果につながった。また、新カリキュラム科目の中で、看護職の魅力ややりがいなどを 1 年次の早い段階から見いだせるような時間割に変更した。一方で、２、３年生での退学者が増加しており、さらなる強化が示唆された。さらに、ＤＰアンケートの自由回答の中に、看護技術の時間をもっと増やしてほしいとの希望があり、看護技術教育の充実が望まれたため、2022 年度からの新カリキュラムの中で技術教育の見直しと再編を行っている。

3. 今回の課題と対応プラン

① 成績評価については、2021 年度に実施した対策を継続して行う。特に、各科目がシラバスに評価方法を詳細に記載し、さらに提示した評価方法の担保および、やむを得ず変更する際は、学生への丁寧な説明の実施を徹底することを徹底していく。

成績分布については大きな問題は認められなかったため、今後も各担当教員に対して、シラバス作成時に科目の特性や目的および到達目標を鑑み、評価方法について、再確認し現状維持できるようにしてく。また、演習や実習科目において、S 評価の割合が高いため、難易度を全体的にあげることを考慮してもよいかもしれない。受講者数については、2022 年度から開始された新カリキュラム中で、科目の再編や内容検討を行った上で、時間割の見直しを行っていく。

② 卒業時の学習成果については、学生は 4 年次まで到達すると、就職や進学が決まり、看護職としての将来がみえてくるため退学者も減少する。また、今年度はアドバイザーの対応強化に加え、メンター制度を導入したことで留年生の減少につながったため、本制度を継続していく。しかし、今年度 2～3 年次の退学が集中していることから、授業参加が滞って

いる学生や休学中の学生に対して、本人の状態に配慮しつつ、アドバイザー教員単独で対応するのではなく、早い段階から可能な範囲で大学との接点を維持しながら、メンター教員等に早めに相談し、不本意な退学を避けるための支援を継続していく必要がある。また、新カリキュラム科目の中で、看護職の魅力ややりがいを1年次の早い段階から見いだせるような教育内容および看護技術教育の充実に向け、技術教育の見直しや看護技術を自主的に学習できる環境の整備の随時行っているため、その成果の確認を行っていく。

4.DP 達成状況のまとめ

以上、本学位について、DP は4年間を通して看護の専門職者として必要な能力を身につけ卒業し、看護師国家試験の合格率は全国平均を上回っているなど概ね順調であるといえる。

しかし、2、3年次に退学が集中しているため、引き続き、アドバイザーおよびメンター教員制度の継続と強化をはかり、学習やメンタル面および将来像確立のための支援を補強していくことが求められる。

添付資料

・ＤＰアンケート

・進路、資格試験、留年、退学状況（資料はこちらをクリック）

・授業実施評価レポート

2022 年 6 月 15 日

看護学部看護学科　殿

教務共通教育部会長

看護学科ディプロマ・ポリシーアンケート結果報告

回答者：令和 3 年度 4 年生 85 名（回収率 86.7%）98 名に配布

1.ディプロマ・ポリシーアンケートの結果

質問項目	平均値
1.　看護学部での学びで、人間を全人的に理解するための知識が身についた。	4.7
2.　看護学部での学びで、対象を支援するために必要な専門知識が身についた。	4.7
3.　看護学部での学びで、科学的根拠に基づいて対応できる問題解決能力が身についた。	4.7
4.　看護学部での学びで、対象にあわせて、根拠に基づいた適切な看護を選択する力が身についた。	4.7
5.　看護学部での学びで、柔軟な思考を持ち、他者との違いを理解した上で、自分の意見を伝えることができるようになった。	4.6
6.　看護学部での学びで、他者に対して関心を持ち、人間関係をつくる態度が身についた。	4.7
7.　看護学部での学びで、対象の問題を解決するために多職種と連携する意欲と態度が身についた。	4.7
8.　看護学部での学びで、看護の役割を自覚し、健康に関する諸問題を探究することができるようになった。	4.6
9.　看護学部での学びで、対象にあわせて、安全で適切な看護が提供できるようになった。	4.5
10.　看護学部での学びで、看護の役割を自覚し、看護者としての倫理観や責任感が身についた。	4.7
全項目平均値	4.7

自由回答

1.　看護技術を自主的に練習できる環境が欲しかった。気軽に行えるといいなと思いました。
2.　実習に行きたかったです。
3.　4 年次後半に技術を忘れてしまいそう。

2.結果について

1.　全項目の平均値は 4.7 であり、各項目の平均値は 4.5～4.7 で、比較的高い傾向が示されています。学生は 4 年間を通して看護の専門職者として必要な能力を身につけたと実感した学生が多いと判断できます。
2.　自由回答から、4 年間を通して看護技術を自主的に学習できる環境の整備の要望があります。また、臨地実習に関して、感染拡大下においても感染対策を講じ、可能な限り臨地での実習が実施できるようにしていくことが望まれます。ご検討よろしくお願いいたします。

授業実施評価レポート

2022 年度　看護学科

１．2021 年度の状況

①　成績評価アンケート

看護学部看護学科の学生を対象とした成績評価アンケートの結果では、おおよそ９割の学生が客観性、妥当性、公平性が不足する科目はないと回答しており概ね良好であった。全ての項目において不足を感じている学生の多くは一つか二つの科目で、その傾向があったとあげており、不足する科目がいくつもあると感じている学生はいなかった。

しかしながら、学年別にみると、不足する科目がないと回答したものが 90%に満たなかった項目は、１年生１項目、２年生１項目、３、４年生は 90%に満たなかった項目はなく、学年が低い方が成績評価に疑問をもつものがやや多い傾向があり、全学教務・共通教育部会から検討を求められた。検討の結果、全体的には良好な回答結果であることから、大きな問題はないと判断された。

また、自由記述において、評価基準の度重なる変更やシラバスとの相違などに関する記述があった。シラバスに評価方法を詳細に記載し、さらに提示した評価方法の担保および変更時は丁寧な説明の実施を徹底することを伝える必要がある。

②　成績分布及び受講者数

成績分布については、専門基礎科目および専門科目ともに、A 評価が最も多く、次いで S 評価、B 評価 C 評価の順で、不可、未受験および無資格は合わせて若干数であった。学科全体でみれば一定のバランスが取れていると判断した。

一方、演習・実習科目を除き、成績 S が 2/3 を超えた科目は１科目、成績 S が０名の科目は４科目あり、これらの科目について、教務・共通教育部会から評価方法及び成績評価方針について確認を求められた。 S が 2/3 を超えた科目と S が０名の科目はともに、2020 年度の９科目より減少しており、シラバス作成時に各担当教員に対して、評価方法について、再整理や見直し依頼をした結果であると考えられた。そのため、特に問題ないと判断し、引き続き、シラバス作成時に評価の見直しのお願いをすることとした。

受講者数について、受講者がいなかった科目は４科目で、これらの科目は 2020 年度も受講者がいなかった。また、受講者が９名以下の科目は４科目で、受講者が少ない状況が継続している状況であった。そのため、全学教務・共通教育部会から、確認・検討を求められた。検討の結果、2020 年度と同様に、看護学部は必修科目が多く実習期間も長いことから、これらの選択科目を受講する余裕がない、希望があっても受講できない、学生が必要性を感じていないなどの原因が考えられた。2022 年度から開始された新カリキュラム中で、科目の再編や内容検討を行った上で、時間割の見直しを行っている。

２．2021 年度レポート対応プランの結果

2021 年度は、以下の２点について計画し実施した。

① 成績評価については、学生が評価内容や方法を理解できるように、担当教員に対して、シラバスの中でディプロマ・ポリシー毎に可能な限り到達目標や評価基準を詳細に記載するよう求めることとした。また、各授業の初回時、シラバス等を用いて評価方法等について、学生により詳しく説明し理解を促すこととした。さらに、授業内や最終回に定期試験範囲、出題方法や対策を伝え、学生からの質問を受け付け、透明性と公平性を担保した。その結果、おおよそ９割の学生が客観性、妥当性、公平性が不足する科目はないと感じていた。今後もシラバスの詳細な記載と授業時の説明を継続していくが望まれる。

② 成績分布に関しては、各担当教員に対して、シラバス作成時に科目の特性や目的および到達目標を鑑み、評価方法について、再整理や見直しの依頼をすることとした。その結果、学科全体の成績分布は一定のバランスが取れているとともに、不可や無資格の学生が少ないという結果であった。また、受講者数の少ない科目については、可能な範囲で時間割の見直しや、年度初めのオリエンテーションで学生に対して科目の説明等を行うこととした。しかし、受講者の増加には繋がっていないため、2022 年度から始まった新カリキュラムの中で、科目の再編や内容検討を行った。

３.対応プラン

① 2021 年度に実施した対策を継続して行う。特に、自由記述に記載された内容について、各科目がシラバスに評価方法を詳細に記載し、さらに提示した評価方法の担保および、やむを得ず変更する際は、学生への丁寧な説明の実施を徹底することを継続していく。

② 成績分布については大きな問題は認められなかったため、今後も各担当教員に対して、シラバス作成時に科目の特性や目的および到達目標を鑑み、評価方法について、再確認し現状維持できるようにしてく。また、演習や実習科目において、S 評価の割合が高いため、難易度を全体的にあげることを考慮してもよいかもしれない。受講者数については、2022 年度から開始された新カリキュラム中で、科目の再編や内容検討を行った上で、時間割の見直しを行っていく。

添付資料

・看護学科 成績評価アンケート結果報告
・看護学科 科目成績分布及び受講者数報告
・看護学科 カリキュラムマップ及びツリー

令和４年６月 15 日

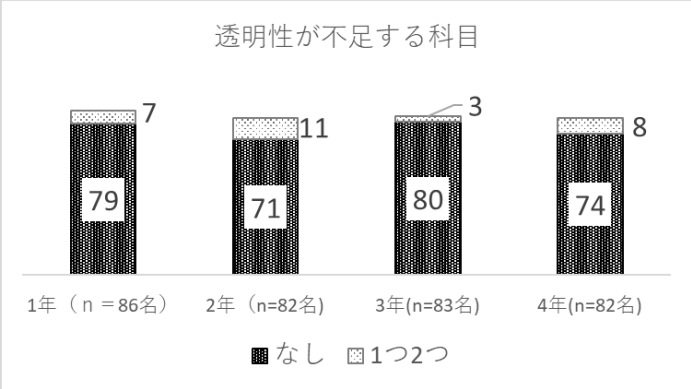
看護学科　殿

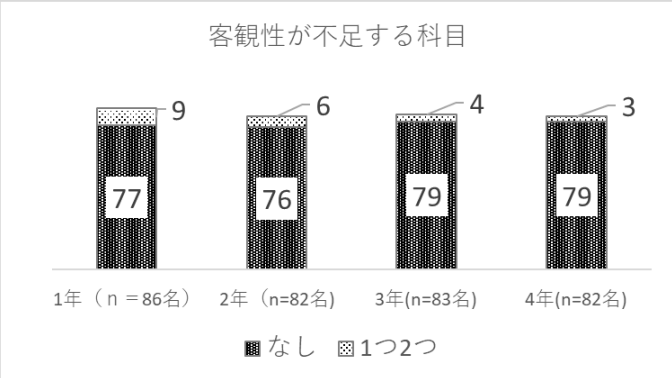
教務共通教育部会長

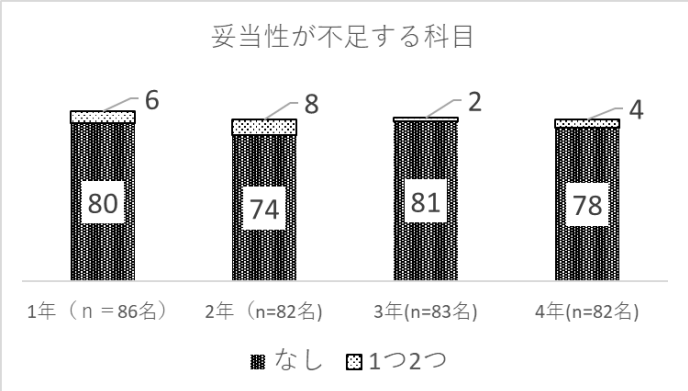
看護学科成績評価アンケート結果報告

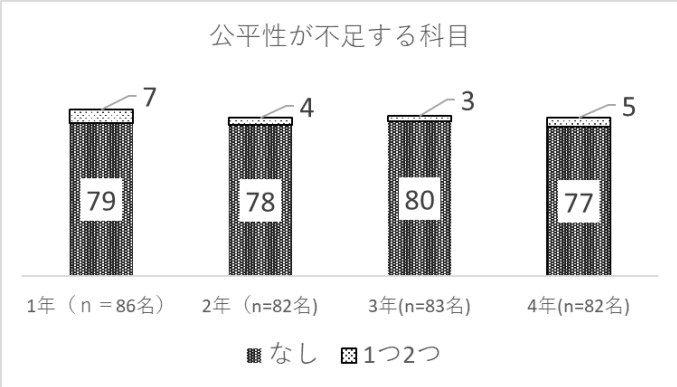
1.成績評価アンケートの結果

(専門科目)









2.結果について

1. 専門科目の評価については、おおよそ９割の学生が透明性、客観性、妥当性、公平性が不足する科目はないと回答していました。また、全ての項目において不足を感じている学生の多くは一つか二つの科目で、その傾向があったとあげていました（自由記述の内容では５科目が挙げられており、各学生が１，２科目ずつ記載と考えられます)。不足する科目がいくつもあると感じている学生はいませんでした。
2. 学年別にみると、不足する科目がないと回答したものが 90%に満たなかった項目は、1 年生 1 項目（客観性)、2 年生 1 項目（透明性)、3，4 年生は 90%に満たなかった項目はありませんでした。学年が低い方が成績評価に疑問をもつものがやや多い傾向が読み取れました。
3. 以上の結果から、成績評価に対して多くの学生が概ね納得していると考えられました。
4. 1 年生は前年度全ての項目において、不足を感じる科目があると回答した者の割合が若干多かったですが、今回の調査では 1 項目になりました。オリエンテーションや各科目の初回で評価について説明した結果である可能性が考えられます。
5. 自由記述で複数の意見が出ている科目については、現状を確認し改善の必要性の有無を検討していただきますよう求めます。

2022 年 7 月 20 日

看護学科殿

教務共通教育部会長
上野 行良

看護学部 看護学科 専門科目 受講者及び成績結果状況報告

2021 年度の看護学部看護学科の専門科目の各科目の受験者及び成績結果をお知らせいたします。

結果について

1. 看護の専門基礎科目および専門科目の全体の成績分布は、A が 46%と最も多く、次いで S29.0%、B は 18%、C は 6%でした。不可、未受験および無資格は合わせて 1.52%でした。
2. 専門基礎科目では S は 32%であったのに対し専門科目は 28%で、専門科目は専門基礎科目に比べて S 評価が少ない結果でした。
3. 「保健社会調査論」「臨床心理学」「看護情報学」「キャリア像確立講義Ⅱ」は、2021 年度は受講者がいませんでした。これらの科目は、2020 年度も受講者がいませんでした。そのため、科目の必要性や妥当性について確認する必要があります。
4. 選択科目「東洋医学概論」、「キャリア像確立講義Ⅰ」「国際看護学」「生態機能看護学Ⅲ」「看護教育学」は受講者が 9 名以下でした。特に、「東洋医学概論」「国際看護学」「生態機能看護学Ⅲ」については、2020 年度に引き続き受講者が少ない状況です。科目の必要性や妥当性および開講時期等を確認してください。多くの受講者が望まれる科目の場合、対策等を取られてください。
5. 各授業の成績分布では、成績に不可が多い科目はありませんでした。ただし、「精神保健学」「看護生化学」で、若干ですが不可の学生が多い傾向でした。
   受講者が多い科目の中で、成績 S が 2/3 を超えた科目は、「チーム医療論」の 1 科目です（演習・実習科目除く）。評価方法や成績評価方針について確認をお願いします。ただし、2020 年度の 9 科目より減少しています。
6. 成績 S が 0 人の科目は、「病態看護学Ⅰ」「栄養学」「看護教育学」「小児看護学概論」の 4 科目です。評価方法や成績評価方針について確認をお願いします。ただし、2020 年度の 9 科目より減少しています。

＊ 本コメントは、問題点を指摘するものではありません。問題がないかを確認し、問題がない場合、これで妥当であることを説明できるようにしてください。また、変更した方が良い点がある場合は、具体的な対策を立てられてください。

添付資料

（1）看護学科の専門基礎科目および専門科目の全体の成績分布

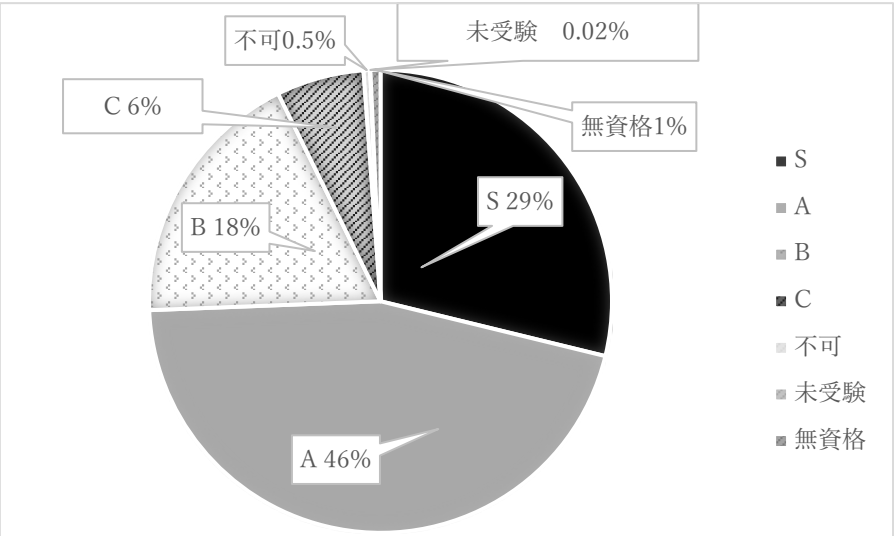


図１　看護学科　専門基礎科目・専門科目全体の成績分布

（2）看護学科の専門基礎科目の全体の成績分布

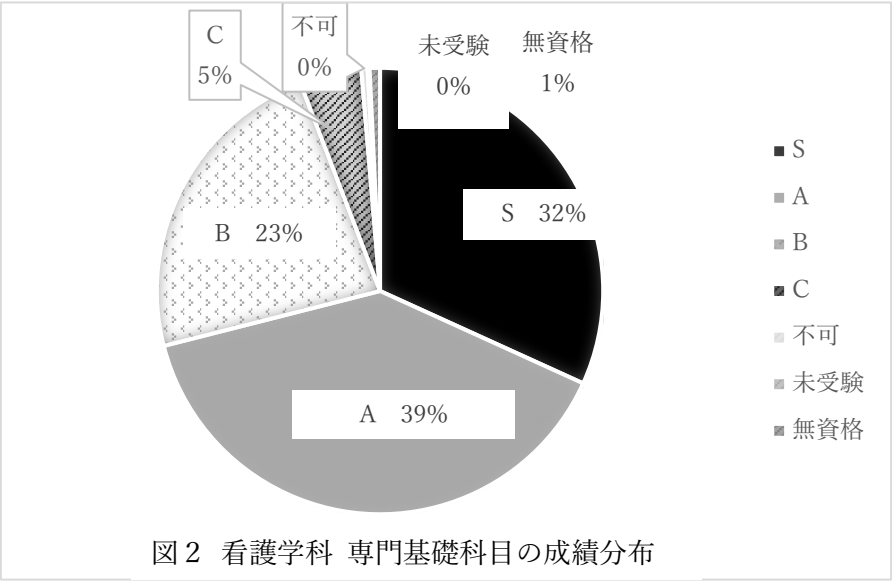


図２　看護学科　専門基礎科目の成績分布

（３）看護学科の専門科目の全体の成績分布

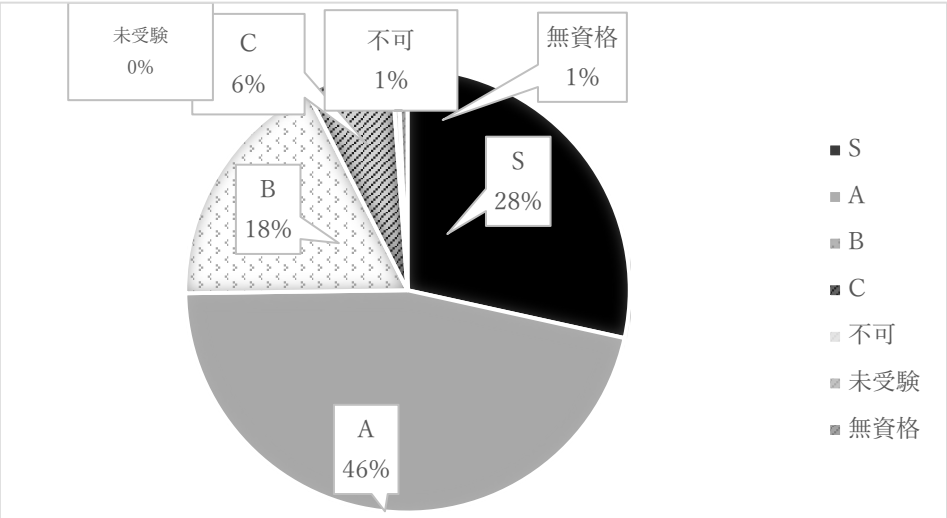


図３　看護学科　専門科目の成績分布

（４）各授業の成績分布

①　専門基礎科目

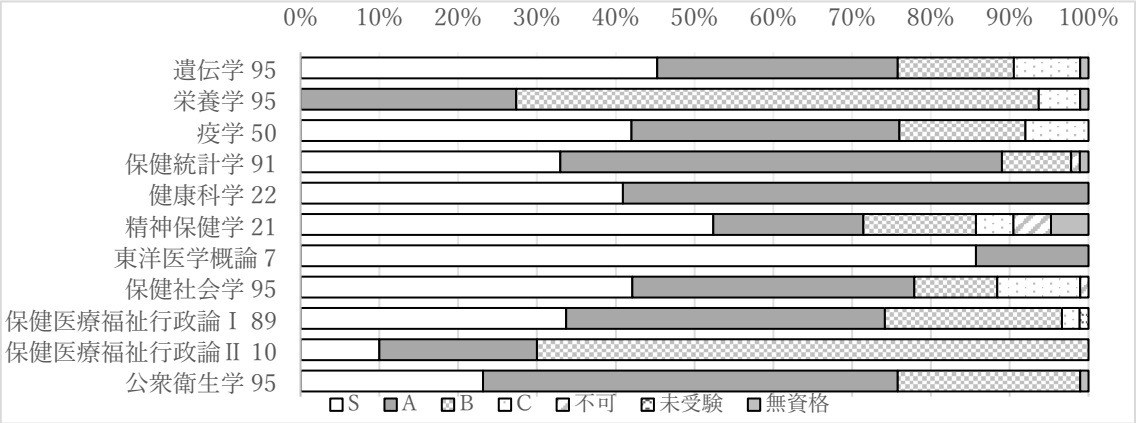


図４　看護学科　専門基礎科目　各科目の成績評価の分布

② 専門科目

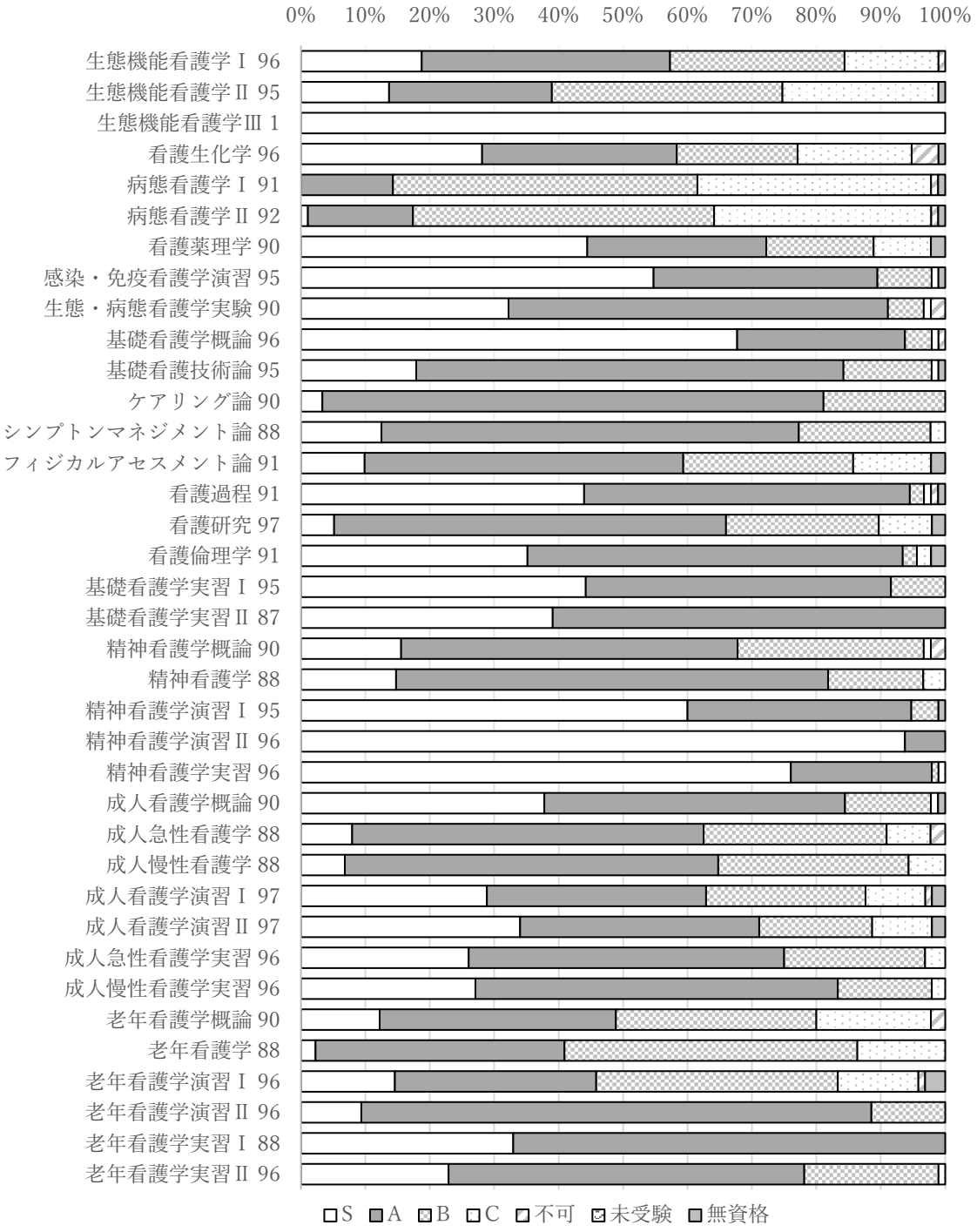


図５ 看護学科 専門科目 各科目の成績分 その１

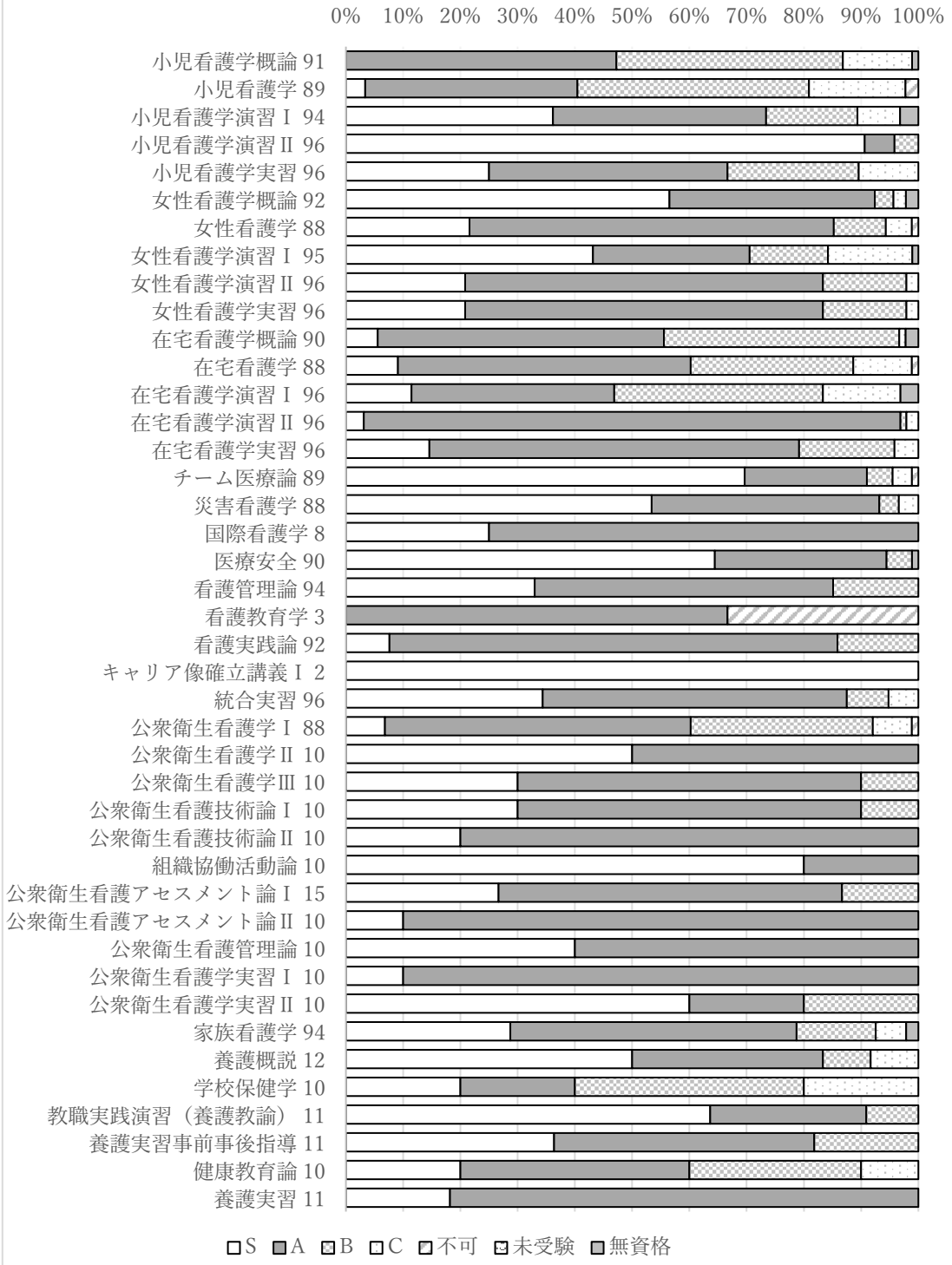


図６ 看護学科 専門科目 各科目の成績分布 その２

看護学部：専門基礎科目

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）	科目責任者	授業概要	知識・技能		思考・判断・表現	主体性・多様性・協働性
		必修	選択					DP1	DP2	DP3	DP4
人間の見方と健康	遺伝学		2	講義	1	芋川浩	本講義では、染色体やＤＮＡの構造や機能といった遺伝学の基礎的な知識を学び、さまざまな疾病や生命現象を分子生物学的に分析・判断できることの重要性を理解する。また、ヒトゲノム解読など人類の遺伝学やゲノム医学の発展を概観するほか、クローン技術や再生医療など、遺伝学に基礎をおく最新の生命医療技術とその応用についての疑問点やその未来を理解・考察できる。	○	○	○	
	栄養学	2		講義	1	青木哲美	人間にとって「食べることは生きること」という視点から、食のもつ特性や役割について基礎知識を得ると共に、社会と疾病構造の変化による健康・栄養問題を知る。これにより食を総合的にとらえ、健康を保持・増進し、QOL（生活の質）の向上を目指した望ましい食生活のあり方について、看護にかかわる者としての役割を理解する。栄養チーム医療の一員として、栄養ケアプランの作成、実施、評価方法を修得する。	○		○	
	疫学		2	講義	2	増滿誠	疫学の基本的事項を理解することを目的に、疫学の考え方、疫学指標と疫学研究について学ぶ。あわせて、疫学研究で用いられる概念、用語、統計学的手法についても解説する。	○	○	○	○
	保健統計学	2		講義	2	松浦賢長	授業「公衆衛生学」（1年次）にて扱われた知識	○	○		
	保健社会調査論		2	演習	3	小出昭太郎	疾病構造の変化などに伴い、保健・医療・看護の領域において、行動・生活・意識・社会環境などについての科学的な把握の重要性が増してきている。そのための有力な方法の1つである、質問紙と統計的分析を用いた社会調査について、講義と演習によって学ぶ。	○		○	○
	健康科学		2	講義	2	松浦賢長	科学的根拠に基づいた健康と運動の概念や運動が健康に与える影響を学習し、自己の健康維持・増進についてい考える。また、医療従事者を目指す者として、運動器の障害や介護予防等の観点から、運動の重要性について学んでいく。	○	○		
	臨床心理学		2	講義	3	岩橋宗哉	臨床心理学の成り立ちについて学ぶ。クライエントへの基本的なかかわり方、理解のし方について事例を通して学習する。現代の代表的な臨床心理学の理論である、精神分析、体験過程療法、認知行動療法についての基本的な考え方について学習する。	○		○	
	精神保健学		2	講義	2	小嶋秀幹	公認心理師、精神保健福祉士、保健師、養護教諭等、将来、精神保健福祉に従事する学生に必要な精神保健学の基礎知識を講義する。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。	○		○	
	東洋医学概論		1	講義	2	増滿誠	東洋医学の観点から基本的病態、診察（看護）実技を教授する。臨床現場の患者事例を通じ、学んだ知識・技術から“ホリスティックに人を捉える”、“気づきの看護”とは何かを考え、広い視野で人を看る力を身に付けることを目指す。毎回、講義内容に準じた診断実技（演習）を行い、知識と技術を関連させた理解を図る。	○	○	○	○
人間と保健・医療	保健社会学	1		講義	1	小出昭太郎	この授業の目的は、保健・医療・看護と社会との様々な関わりを理解し、それによって保健・医療・看護に対するより多角的な視点を身につけることである。たとえば、ある人がどれほど健康でいられるかということに対しては、生物学的な要因だけでなく様々な要因が影響を及ぼしており、その人がいる社会的な環境もそれらの要因の１つである。	○			○
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1		講義	2	四戸智昭	保健・医療・福祉の臨床現場で働く際に求められる必要な制度や政策について学ぶ科目である。少子・高齢の時代を迎えた現代社会においては、従来の保健や福祉の制度や政策が大きな転換点を迎えている。また従来の仕組みが新しい人々の生活に対応できなくなったり、従来の保健・医療・福祉の枠組みの変換だけでは、人々の幸せを維持できなくなりつつある。保健・医療・福祉の専門職が、相互に連携を取りながら、この新しい局面に対応していくことが求められる。この科目では、保健・医療・福祉の制度や政策について、特に専門職種の連携という視点から理解を深めるとともに、人々の生活上の問題や健康問題を取り上げながら、人々を支える行政システムについて深い理解をすることが目的である。	○			○
	保健医療福祉行政論Ⅱ		2	講義	4	四戸智昭	現在、わが国は未曽有の少子・高齢の時代を迎えている。人々の生活の基盤を支える保健・医療・福祉制度や政策は、この時代の変化に対応すべく大転換を求められようとしている。またこういった大転換にあっては、制度や政策がそこに住む人々の生活に細やかに対応するために、より柔軟で、スピーディーな対応が地方自治体には求められる。本科目では、主に住民の健康維持活動の担い手となる保健師に必要な保健・医療・福祉制度や政策について理解を深めることが目的である。またこれまでよりもさらに住民主体の保健制度や福祉制度を地域で構築するために、保健や福祉に対する住民ニーズの把握や、新しい計画や施策の立案に必要な素養を養うことも本講義の重要な目的である。	○			○
	公衆衛生学	2		講義	1	松浦賢長	民主主義の方法に関する知識と、国際関係に関する知識	○			

看護学部：専門科目

授業科目の区分と科目名		単位 必修	単位 選択	授業方法	開設時期（標準履修年次）	科目責任者	授業概要	知識・技能 DP1	知識・技能 DP2	思考・判断・表現 DP3	主体性・多様性・協働性 DP4
実験看護学	生態機能看護学Ⅰ	2		講義	1	江上千代美	看護の基礎となる人体の構造と機能について講義する。すべての生命体は外界からの刺激を受け止め、外界とのやりとりを通して個体の維持を行うとともに、種を存続させていく。人間が「生きている」および「よく・うまく・たくましく生きていく」ための脳の構造と機能を学び、動物としての人間が人間らしく存在するために必要な「運動」と「休息」についても学ぶ。	○		○	○
	生態機能看護学Ⅱ	2		講義	1	江上千代美	看護の基礎となる人体の構造と機能について講義する。人間は外部環境から生体に必要なものを取り入れ、 体内で使用した老廃物や不要物を排泄している。そのため人体には細胞をとりまく内部の状態（内部環境）をできるだけ恒常に保つ仕組みが備わっている。この内部環境の恒常性維持を中心に、物質の運搬とその経 路、及び物質の摂取と排泄について学ぶ。	○		○	○
	生態機能看護学Ⅲ		1	演習	4	江上千代美	人間の健康状態を的確に把握するために、胎生期・幼年期～老年期に至る人体の正常な状態の変化を理解し、正常の生態機能をもとに生態機能が異常になった事例の看護を考える。正常な人体の構造と機能を理解し、事例で応用できる力を養う。	○		○	○
	看護生化学	2		講義	1	芋川浩	生物のからだを構成する物質とその機能を理解するために必要な生化学の基礎的な知識を学び、さまざまな生命現象や疾病のしくみを理解できることを目的とする。また、最近の生命科学の発展は目覚しく、分子生物学などの方法を応用した医療技術が日々進歩している。本講義では、最新の医療技術とその成果についての理解を深め、応用できることも目標としている。	○	○	○	
	病態看護学Ⅰ	2		講義	2	江上千代美	組織や細胞の変化、修復と再生などを理解し、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどについて病因、経過、形態について学ぶ。さらに疾患における臓器、組織の形態と機能の変化について学ぶ	○			
	病態看護学Ⅱ	2		講義	2	塩田昇	疾患の頻度や臨床的重要度にもとづいて、典型的な症例を中心に、症候から鑑別診断・確定診断へと至る思考の進め方や各種検査の意義、さらに治療方法について解説する。	○			
	看護薬理学	2		講義	2	竹内　弘、東　泉	薬物治療において看護師の果たす役割は大きい。誤薬の防止、治療効果の確認、有害作用の早期発見と予防、服薬に関する患者指導、患者・家族に対する治療の説明など、に必要となる薬理学の基礎知識と薬物 治療の基本すなわち、１.薬物の体内動態と作用部位、２.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くの か）、３.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、４.薬物の副作用とその対策、について学ぶ。	○			
	感染・免疫看護学演習	1		演習	1	杉野浩幸	看護師として知っておくべき細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について概説する。感染症の症状について理解し、第三者に的確に説明できることを目標とする。	○			
	生態・病態看護学実験	1		実験	2	江上千代美	人体の構造と機能をより理解するために、自ら経験する実習を通して、人体の生理的反応を捉える。また、人体解剖見学及び動物の解剖を通して、正常な臓器や組織の観察を行い、生体の構造や機能の理解を深める。さらに、手指・鼻腔などから細菌の検出を行い、感染防御の基礎的知識を修得する。	○	○	○	○
	基礎看護学概論	2		講義	1	永嶋由理子	看護は対象の健康的な生活や自立の獲得に向け、直接的なかかわりを通して実現される実践活動である。この科目では、実践活動の基盤となっている「ホリスティックな人間の見方」「健康のとらえ方」「環境のとらえ方」「看護とは何か」を柱に、目的論・対象論・方法論をふまえながら学ぶ。また看護はどのような歴史的変遷をたどってきたのか、保健医療の中における看護の専門性・独自性についても学んでいく。さらに看護の役割は何かについても理解を深めていく。	○		○	○
	基礎看護技術論	2		演習	1	永嶋由理子	看護技術の理論的な根拠を理解し、対象の健康状態や発達段階等の個別性に応じて臨機応変に活用できるように看護の基本技術を修得する。現在用いられている看護技術は、実践の中で検証が重ねられているが、そのような成果を学ぶとともに、看護技術を検証する能力も身につける。	○	○	○	○
	ケアリング論	2		講義	3	石田智恵美	ケアリングは看護実践の基盤となる概念であるとともに、看護者と対象との関係のあり様を示している。この科目では、ケアリングの歴性的背景を踏まえ、ケアリングが行われていると考えられる現象を探求し、ケアリングに携わる者に求められる事柄について考察する。	○			○

基礎看護学	シンプトンマネジメント論	1		演習	2	永嶋由理子	さまざまな疾病や治療に付随するシンプトン(Symptom)を理解し管理・緩和することは、患者に安楽をもたらしQOLの向上を目指す看護にとって非常に重要なことである。この授業では、 看護の視点から、症状マネジメントの概念、構成要素、そして患者の症状体験の全容を理解し、症状を管理・緩和する実践についてその科学的根拠とともに学ぶ。	○	○	○	
	フィジカルアセスメント論	2		演習	2	永嶋由理子	対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術について学ぶ。ここでは、フィジカルアセスメントの目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際と援助技術について学ぶ。	○	○	○	
	看護過程	1		演習	2	永嶋由理子	看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養うために、方法論としての看護過程を講義・演習を通して学ぶ。ここでは、看護過程の意義や目的を理解するとともに事例を用いて具体的な展開方法を習得していく。また、演習を行うなかで、問題解決能力や批判的思考能力を育成する。	○	○	○	
	看護研究	2		講義	3	石田智恵美	看護師が科学的な実践を行っていくうえで、その基盤となる知識を形成する看護研究は非常に重要である。この科目では、将来学生が、実践者として研究から見出された知識を正しく理解し臨床で活用できる能力を身に着けることをねらいとする。また、看護の事象を科学的に捉え分析するための基礎知識として、看護研究における様々な研究方法についても学ぶ。		○	○	○
	看護倫理学	1		演習	2	永嶋由理子	倫理の原則や倫理規定から看護職に求められる倫理を考える。また、現在の医療・看護の場において看護職が直面する倫理的問題や課題について事例を通して検討し、看護職としての倫理観を構築する。	○		○	○
	基礎看護学実習Ⅰ	1		実習	1	永嶋由理子	実習を通して「人間」「環境」「健康」「看護」の実際について知り、看護への理解を深めることができる。また、その過程で看護について関心を高め、主体的な学習態度を身につけることができる。	○	○	○	
	基礎看護学実習Ⅱ	2		実習	2	永嶋由理子	受け持ち患者に対する理解を深め、患者の看護の必要性をニードの視点から見出す。さらに、患者のニード充足のために既習得技術を活用して看護援助を実践できる基礎的能力を身につける。	○	○	○	
	精神看護学概論	1		講義	2	村方多鶴子	個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場や状況に応じて、看護の 対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な、精神 保健看護の歴史、法律、看護理論および看護に関連する理論や看護技術について学ぶ。	○		○	

精神看護学	精神看護学	2		講義	2	村方多鶴子	個人や家族の精神の健康課題・発達段階・セルフケアレベル・生活の場に応じて、看護の対象者の希望やニーズに添って、他の専門職者と協働して看護を提供するために必要な看護の方法や態度を学ぶ。	○		○	
	精神看護学演習Ⅰ	1		演習	3	村方多鶴子	援助関係を構築する技術とロール・プレイングを使った看護過程のグループワーク、看護上の出来事の再構成の個人ワークにより、他者理解と自己理解を深め質の高い看護を提供する能力を養う。またそれらの過程を通してグループで学び合い、教え合う教育臨床の風土を醸成する。	○	○	○	○
	精神看護学演習Ⅱ	1		演習	3～4	村方多鶴子	ペーパーペイシェント事例にオレム-アンダーウッドモデルを適用し、看護過程を展開する能力を養う。その過程を通してグループで学び合い、教え合う教育臨床の風土を醸成する。	○	○	○	○
	精神看護学実習	2		実習	3～4	村方多鶴子	精神に病や障害をもつ人とその家族との援助的人間関係を築き発展させ、一日も早くその人らしい生活を取り戻せるようセルフケアを援助する為の臨床の知識、技術、態度を自己の経験の振り返りを通して実践的に修得する。また、それらの人々との関係を通して援助の担い手としての自己を見つめる能力を養う。	○	○	○	○
	成人看護学概論	1		講義	2	福田和美	成人各期の身体的機能の特徴、成人期の社会および生活状況からの特徴、役割をホリスティックに理解する。成人期にある個人とその家族を対象とし、成人期の健康の特徴や起こりやすい健康の危機的状況をふまえ、成人期の健康の保持・強化、疾病予防について理解を深め、健康を支援していくための援助について学ぶ。	○		○	
	成人急性看護学	2		講義	2	福田和美	成人期の特徴をふまえ、健康障がいの急性期にある対象者の看護について学ぶ。特に周手術期の看護を中心に、侵襲からの回復過程と回復を促すケアについて学ぶ。また、対象者を取り巻く家族、重要他者を含めた心理的、社会的支援について学ぶ。	○		○	○

成人看護学	成人慢性看護学	2		講義	2	福田和美	成人期において慢性の健康障害や機能障害を有する対象およびその家族の特徴について理解し、その看護について学ぶ。終末期にある対象およびその家族の特徴について理解し、その看護について学ぶ。終末期の患者の家族への支援、チームアプローチ、倫理的問題について学ぶ。	○		○	○
	成人看護学演習Ⅰ	1		演習	3	福田和美	成人期にある対象者の疾患や治療の状況を把握しながら、病態に応じた看護過程の展開を学ぶ。また、基礎看護学で学んだ看護技術を対象者の看護の状況に合わせて選択するための根拠と評価のポイントを学ぶ。	○	○	○	○
	成人看護学演習Ⅱ	1		演習	3	福田和美	基礎看護学で学んだ技術を用いて、成人期の看護の状況に応じた看護技術の実践を学ぶ。対象者の状態に即した看護技術の選択とその根拠を明確にしながらシミュレーションし、安全で安楽な実践方法について学ぶ。看護技術を実践する場合の対象者への倫理的配慮について学ぶ。	○	○	○	○
	成人急性看護学実習	3		実習	3～4	福田和美	健康障害や機能障害を持ちながら生活している人をホリスティックに理解し、対象者及びその家族が直面している健康問題とその援助方法を具体的に学び、実践するための基本的な能力を身につける。特に急性期においては、急性期にある対象者の特徴を理解し、対象者の生命力の消耗を最小限にして、生命維持・健康回復を促すための援助を身につける。	○	○	○	○
	成人慢性看護学実習	3		実習	3～4	福田和美	慢性疾患による健康障害や機能障害を持ちながら、長期にわたってコントロールしながら生活している成人をホリスティック（全人的）に理解し、対象およびその家族の生活の質（QOL）の維持・向上を支援する看護を身に付ける。	○	○	○	○
老年看護学	老年看護学概論	1		講義	2	楙　直美	老年期にある人とその家族を多角的に捉え、特徴の理解を深め、健康生活を目指した看護の基礎的知識を学ぶ。また、社会の動向と老年看護の歴史を学び、倫理的側面から老年看護の果たす役割と課題について考察する。地域で生活する高齢者との対話から、生き方、健康生活を送る上での工夫、家族への思い、余暇の過ごし方、生活環境と暮らしぶりから、全人的に理解し、老年期にある人と若者が自ら健康的に老いることについて考察する。	○		○	
	老年看護学	2		講義	2	楙　直美	老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴を理解し、健康障がいをもつ対象の健康課題をとらえるための基礎的知識を学ぶ。さらに老年期にある人とその家族の課題解決にむけての看護ケアの方法について考察する。また保健・医療・福祉の制度を通して健康支援システムの理解および多職種との連携における看護の役割と機能を学ぶ。	○	○	○	
	老年看護学演習Ⅰ	1		演習	3	楙　直美	老年期にある対象者とその家族をホリスティックな視点でとらえ、既習知識を活用して健康生活をアセスメントし健康課題を導き出す。また老年期に多いADL機能の低下や認知症高齢者などの事例を通して体験学習を行う。その体験を通して健康課題を解決できる看護実践方法を考察し、基礎的看護技術を学ぶ。		○	○	

老年看護学	老年看護学演習Ⅱ	1		演習	3～4	楳　直美	老年看護に関する講義・演習・実習とこれまでの実習における経験の意味を探求し、自らの課題を見いだす。課題を解決するための計画を立案し、課題解決能力を養う。		○	○	○
	老年看護学実習Ⅰ	1		実習	2	楳　直美	老年期にある人の特徴を理解し、健康生活のサポート・システムを考える能力を養う。	○		○	○
	老年看護学実習Ⅱ	3		実習	3～4	楳　直美	健康課題を持つ老年期にある人と共に生きる家族の特徴を理解し、健康生活を支援するための基礎的な看護実践能力を養う。	○	○	○	○
小児看護学	小児看護学概論	1		講義	2	田中美樹	生涯発達の視点から小児期について概説する。小児各期の成長発達を理解するために形態的・機能的発達、心理社会的発達および、小児と家族を取り巻く社会や状況を概説する。	○		○	
	小児看護学	2		講義	2	田中美樹	小児看護学概論の内容をふまえ、健康問題および障がいをもつ小児の特徴、健康問題をもつ小児と家族の看護、症状を示す小児の看護、検査･処置･手術を受ける小児の看護などを解説する。また、小児期の主要な疾患の病態･症状･診断･治療を概説し、病態･経過にそった看護を解説する。	○		○	
	小児看護学演習Ⅰ	1		演習	3	田中美樹	様々な状況にある子どもと家族に対して、小児看護が果たす役割につていて学ぶ。また、小児看護技術の特徴（処置を受ける子どもへの説明と同意や家族支援などを含む）を理解し、様々な状況に応じた看護技術の演習を行う。さらに、小児期特有の疾患の事例をもとに看護過程を展開する。	○	○	○	○
	小児看護学演習Ⅱ	1		演習	3～4	田中美樹	事例をもとに子どもの発達段階や状況をアセスメントした上で、優先順位をふまえた看護技術の演習を行う。さらに、子どもの権利を尊重した看護について理解を深めることができる。	○	○	○	○
	小児看護学実習	2		実習	3～4	田中美樹	あらゆる健康レベルの子どもと家族を総合的に理解し、日常生活や状況に応じて、子どもと家族を尊重した看護を実践できる能力を養う。	○	○	○	○

授業科目の区分と科目名		単位 必修	単位 選択	授業方法	開設時期（標準履修年次）	科目責任者	授業概要	知識・技能 DP1 ①	知識・技能 DP2 ④	実行・判断・表 DP3 ⑧	性・多様性・協 DP4 ⑫
女性看護学	女性看護学概論	1		講義	2	石村美由紀	1.　女性の健康支援に必要な主要概念を理解し、女性とその家族のライフサイクルを通した健康支援を学ぶ。 2. 生活している包括的な人間としての女性とその家族に行うホリスティックケアの必要性を学ぶ。	○		○	○
	女性看護学	2		講義	2	石村美由紀	妊産褥婦および新生児を、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの視点から理解し、エビデンスに基づいたケアを学ぶ。	○		○	○
	女性看護学演習Ⅰ	1		演習	3	吉田静	１．女性とその家族を対象にライフサイクルを通した教育やケアを実践するために必要な技術を学ぶ。 ２．妊産褥婦および新生児に必要なケアの実践に向けて事例を用いた情報分析とアセスメントを行い、看護過程を学ぶ。	○	○	○	○
	女性看護学演習Ⅱ	1		演習	3～4	吉田静	１．女性看護学演習Ⅰで習得した技術をさらに洗練させ、論理的根拠に基づき実施する。 ２．事象の意味をホリスティックケアモデル、リプロダクティブヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの概念に基づき探求する姿勢を身につける。	○	○	○	○
	女性看護学実習	2		実習	3～4	石村美由紀	１．妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、実際に看護過程を展開することで、適切な看護を実践する能力を培う。 ２．生命の神秘・尊厳を考えることができる。 ３．退院後の生活、家族関係など、対象者を多角的に理解することができる。 ４．ホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス／ライツとプライマル・ヘルスの概念に基づき考察できる。 ５．受け持ち看護、カンファレンス運営などを通して、コミュニケーション能力を培う。 ５．多職種との協働・連携を学ぶ。	○	○	○	○
在宅看護学	在宅看護学概論	1		講義	2	吉田恭子	在宅で生活する療養者及び家族をホリスティックにとらえ、地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能及び仕組み等、在宅看護の基礎を学ぶ。	○		○	
	在宅看護学	2		講義	2	吉田恭子	在宅で生活する療養者および家族をホリスティックにとらえ、地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組み等、在宅看護の基礎を学ぶ。さらに、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題等について学ぶ。	○	○		
	在宅看護学演習Ⅰ	1		演習	3	吉田恭子	在宅看護学における看護過程の特徴を理解するために、事例を用いて具体的な展開方法を習得する。	○	○	○	○
	在宅看護学演習Ⅱ	1		演習	3～4	吉田恭子	在宅で生活する療養者及びその家族の生活や健康課題に対し、援助するための技術や方法について理解するとともに、それらを実践する能力を習得する。	○	○	○	○
	在宅看護学実習	2		実習	3～4	吉田恭子	在宅で生活する療養者及び家族の健康課題をホリスティックにとらえ、看護過程を展開しながら、在宅療養における在宅看護の機能・役割及びその特性を理解する。	○	○	○	○

看護の統合と実践	チーム医療論	1		講義	2	尾形由起子	超高齢社会の到来、医療の高度化・IT 科に伴い、様々な課題を抱える現代の医療現場において、質の高いサポートを実現するためには、患者や対象者に対して、様々な専門職が連携して治療やケアにあたり、チーム医療における看護師の役割と今後の可能性について理解する。	○	○	○	○
	災害看護学	1		講義	2	尾形由起子	災害看護の基礎知識として、災害サイクルに応じた活動現場別の看護、被災者特性に応じた看護展開、災害とこころのケア、災害看護活動の課題、具体的な発災直後から回復過程、さらには防災における看護展開の概要について学ぶ。		○	○	○
	国際看護学		1	講義	2	石田智恵美	グローバル化している現代は、海外に出かけなくても、日常生活の中で国際的な視野を必要とされる場面が多い。国際看護論では、世界の健康問題と看護の現状およびその課題について学び、看護実践を行う際に必要となる国際的な視野を養う。将来海外で看護を実践したいという学生のためだけではなく、日本の中での看護実践に役立つ考え方や見方ができる能力を身に付ける。	○			○
	医療安全	1		講義	2	江上千代美	DP2： +K66:V66看護への興味・関心を持ち、学習への積極的態度を示すことができる DP10： ①基礎的なコミュニケーション技術を使って対象と接することができる。	○	○		○
	看護管理論	1		講義	4	石田智恵美	看護管理は、看護師が対象者(患者)に提供するケアのマネジメントを核として、それを包含した看護サービス全体のマネジメント、さらに制度・政策との関連を含めた概念である。本授業では、看護の提供および患者の安全確保のために必要な、看護マネジメントの基礎的知識を獲得する。	○			○
	看護教育学		1	講義	3	石田智恵美	これまで受けてきた教育を通して、教育とは何かについて考える。また、看護領域における教育について、歴史・思想・制度・目的・方法などを学び、看護教育に関する現状と課題、将来の展望について考察する。	○		○	○
	看護実践論	1		演習	3	石田智恵美	３年次の実習への導入として、実習中に起こり得る出来事をシミュレーションし、未来を予測した問題解決を実践する。また、個人ワークに基づいたグループワークを行うことで、自らの判断基準を広げる。その方法として、ポートフォリオを活用したプロジェクト学習・ワークシートを活用した演習を行う。看護実践の一貫としてCPR（心肺蘇生法）を演習する。			○	
	看護情報学		1	演習	2	増滿　誠	「看護情報学とはコンピュータサイエンスと情報科学、看護科学を組み合わせることによって看護についてのデータ、情報、知識の処理と管理を行い、臨床看護と看護ケアの提供を支援するものである」という定義を踏まえ、看護における情報について、情報を得ること、その捉え、活用方法を演習（CST：コミュニケーション感性トレーニング）を通して体系的に学ぶ	○	○	○	○
	キャリア像確立講義Ⅰ		1	講義	1	松浦賢長	本授業は、多様な価値を理解し共有する学生を養成し、「しなやか使命感」を有する看護職者の育成を目指し、九州・沖縄の 8 つの看護系大学と 5 つの専門機関（ステークホルダー）が連携しビデオオンデマンドシステム（VOD）による講義を展開する。「しなやか使命感」の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるため、看護の第一線で活躍する看護専門職者が講師となり、さまざまな分野での経験を教授していく。看護の分野も多岐にわたっており、将来の理想の看護師像を広い視野を持って描くことを目的とする。	○		○	○
	キャリア像確立講義Ⅱ		1	講義	3	松浦賢長	本授業は、多様な価値を理解し共有する学生を養成し、「しなやか使命感」を有する看護職者育成のために、九州・沖縄の 8 つの看護系大学と 5 つの専門機関（ステークホルダー）が連携協力し、ビデオオンデマンドシステム（VOD）による講義を展開する。「しなやか使命感」の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるため、看護職者として活躍する連携大学の卒業生より講話を看護の聞き、学生の時期に身につけておきたい専門職者の特性や能力、看護職者として就職した際の悩みや困難感についての講義を通し、より実際的な看護師像を描くことを目的とする。	○		○	○
	統合実習	2		実習	4	石田智恵美	既習の知識・技術を統合し、臨床現場に即した実践能力や問題解決能力を養う。また看護を科学的に探究することを通して、看護への関心と意欲を高め、自己の看護観を深める。	○	○	○	○

	専門看護学ゼミ	2		演習	3		これまでの学習を通して、疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点について探究する。その過程 を通して論理的思考や倫理的態度を養うと共に、研究を進めていく上で必要な基礎知識を習得する。	○	○	○	○
	卒業研究	2		演習	4		これまでの学習を通して、疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点について探求する。その過程を通して論理的思考や倫理的態度を養う。疑問や興味、関心を持った看護上の現象や問題点について、自ら探求し、その結果から自らの考え方を導き出し、論文としてまとめる。	○	○	○	○
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学Ⅰ	2		講義	2	尾形由起子	公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を学ぶ。 生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に学ぶ。	○		○	
	公衆衛生看護学Ⅱ		2	講義	4	尾形由起子	PDCAサイクルに基づく公衆衛生看護活動の展開プロセスについて学ぶ。 公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握、ニーズに基づく地域の保健活動の目標設定、活動計画の立案、評価について学ぶ。また、対象別の支援方法と保健事業実施計画の企画立案、評価方法を学び、施策化・事業レベルの展開プロセスについても理解する。	○		○	
	公衆衛生看護学Ⅲ		1	講義	4	尾形由起子	公衆衛生看護活動における健康課題の把握や課題解決の基本となる理論や科学的根拠を確認し、臨地実習の体験と文献から健康課題を把握する調査方法や課題解決方法を検討するための研究方法について学ぶ。	○	○	○	
	公衆衛生看護技術論Ⅰ		2	演習	4	尾形由起子	乳幼児虐待や生活習慣病等のハイリスク者の特徴を理解し、対象の把握方法、個人・家族への支援方法を学ぶ。 家庭訪問及び保健指導・健康相談の基本的な支援技術を習得するため、ペーパーペイシェントを用いた事例検討とロールプレイを行う。健康課題に影響する環境要因を捉えて潜在的健康課題を顕在化し予防的に働きかけ、健康弱者の代弁者となって権利を擁護する保健師の支援方法について学ぶ。	○	○	○	
	公衆衛生看護技術論Ⅱ		2	演習	4	尾形由起子	公衆衛生看護活動における健康教育の意義とその基盤となる理論について理解し、地域住民が健康課題を主体的に解決することを目的とした支援技術を習得する。 行動科学や学習理論に基づいた集団に対する支援方法を学び、実習と連動させた演習で健康教育の企画立案、実施、評価のプロセスを体験する。	○	○	○	
	組織協働活動論		2	講義	4	尾形由起子	保健師が行う他職種・他機関との合意形成や協働しながら継続的・組織的に健康課題を解決する方法、協働活動を開発、改善、管理する活動方法について学ぶ。 地域を構成する組織・機関や制度、仕組みを構造的にとらえ、地域の課題解決能力を高めるための連携・協働活動の意義と必要性について理解する。また、行政施策への住民参加、地域組織化活動の意義を理解し、住民との協働活動についても学ぶ。	○		○	○
	公衆衛生看護ｱｾｽﾒﾝﾄ論Ⅰ		1	演習	3	尾形由起子	公衆衛生看護活動の活動展開の基盤となる地域のアセスメント方法を学ぶ。 コミュニティアズパートナーモデルを用いたコミュニティを把握するために必要な情報の収集方法と、人々の健康課題を把握するためのアセスメント方法を学ぶ。	○		○	
	公衆衛生看護ｱｾｽﾒﾝﾄ論Ⅱ		2	演習	4	尾形由起子	公衆衛生看護活動の展開につながる地域のアセスメント技術を習得するため、実習先の地域の情報を収集しアセスメントを行い、抽出した健康課題をもとに必要な活動を検討する。 把握した地域の特徴と健康課題を資料化して意見交換を行い、プレゼンテーション技術や討議の進め方について学ぶ。	○	○	○	
	公衆衛生看護管理論		2	講義	4	尾形由起子	公衆衛生看護活動におけるマネジメントの考え方と意義について理解し、行政の保健師の役割と管理活動について学ぶ。 行政組織の予算管理、人事管理、事業管理の実際、地域ケアシステムの構築とケアサービスの質の管理、政策決定及び施策化への関わり、災害等健康危機管理における行政の活動について学ぶ。	○	○	○	

	公衆衛生看護学実習Ⅰ		1	実習	4	尾形由起子	公衆衛生看護活動の対象である地域と保健師の活動の実際を学び、行政における保健師の役割と活動方法について理解する。 保健所で実習を行い、主に保健師の活動に参加する。地域の保健医療福祉関連情報を収集して健康課題を検討し、個別支援の対象者に関する情報収集とアセスメント、支援計画を検討する。		○	○	○
	公衆衛生看護学実習Ⅱ		4	実習	4	尾形由起子	公衆衛生看護学実習Ⅰをもとに抽出した健康課題を踏まえ、保健所管轄区域内の市町村を中心に実習を行う。 公衆衛生看護活動における基本的な支援技術を習得するため、保健事業の企画・立案、実施、評価の過程に参画するとともに、継続した家庭訪問又は保健指導を行う。個人・家族と集団や組織への支援を連動させた公衆衛生看護活動の実際について学ぶ。また、保健福祉医療システムの構築における関係機関や他職種との連携や、保健医療福祉計画策定における保健師の施策へのかかわり、住民組織への関わりなどの実際についても学ぶ。		○	○	○
	家族看護学	1		講義	3	尾形由起子	健康問題や養育を必要とする人を抱えたとき、家族が相互にどのように影響するのかを理解し、家族成員が健康問題に対処する力を引き出し支援するために必要な家族看護学の基本的な理論と家族への援助方法について理解する。	○		○	
学校保健	養護概説		2	講義	2	松浦賢長	養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基礎について学ぶことを目標に講義・演習を行う。 「保健室経営」「保健管理」「保健教育」「健康相談」「組織活動」「安全」の視点から養護教諭としての基礎的知識と技術を学び、その基礎となる価値観を醸成することを目的とする。 さらに地域社会における学校保健の役割と養護教諭の職務および期待されている役割、子どもを取り巻く多様な健康問題とその支援方法について考える。	○	○		
	学校保健学		1	講義	3	松浦賢長	学校保健の歴史をふまえ、学校保健の意義、目的や教育システムにおける位置づけを理解させ、学校教育期の健康問題とその解決方法、学校保健活動方法、関連職種との連携、学校看護の機能と養護教諭の役割、児童・生徒・教職員の健康管理のあり方等を教授する。また、学校保健の今日的課題を演習し、その解決に向けて、医療や地域保健との連携方法の実際を教授する。	○	○		
	教職実践演習（養護教諭）		2	演習	4	松浦賢長	養護教諭の専門性に基づいた養護活動の実際について学ぶことを目標に演習を行う。保健室経営、保健管理、保健教育、健康相談、組織活動等の視点から養護教諭として必要な知識と技術を学び、同時にそれらの基盤となる価値観を醸成することを目的とする。さらに地域社会における養護教諭の職務と期待されている役割等についても学び、広い視野で子どもを取り巻く今日的な課題を考え、演習を通し、これらの子どもたちとその家族、そして地域への援助ができるよう資質の向上を図る。	○	○		
	養護実習事前事後指導		1	実習	4	松浦賢長	4年次の「養護実習」にあたっての事前指導と事後指導を行うものである。事前指導では、養護実習の意義と心構えについて講義し、観察参加の心構え、観察の仕方とポイント、観察の具体的内容、観察記録の書き方等を指導する。事後指導では、養護実習を終えた後、養護実習の内容と反省、意見などついて実習報告等の実習総括を行う。これにより、養護教諭としての専門的知識・技術・価値観を醸成する。	○		○	
	健康教育論		2	講義	3	松浦賢長	現代において、いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因は深刻化しつつある。これらの様々な課題に対応すべく、学校現場における養護教諭の日々の実践において、ヘルスプロモーションの理念に基づいた子どもの発育や発達への支援が求められており、それに必要な健康相談活動の理論及び方法について学ぶ。	○			
	養護実習		4	実習	4	松浦賢長	教育の場において養護教諭によって行われている保健教育及び保健管理等の実践を直接学び、児童生徒の心身の健康上の問題及び健康保持への指導・援助について理解する。そのために、学校教育全体の組織・運営を理解し、学校保健安全計画の作成及び実践に参加し、学校保健活動における養護教諭の役割と活動内容を４つの獲得能力の柱をもとに理解することを目的とする。		○	○	

令和３年度版

看護学部カリキュラムツリー

知識・技能		思考・判断・表現	主体性・多様性・協働性
DP1	**DP2**	**DP3**	**DP4**
・現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。 ・人間を理解するための学術的な幅広い知識を有している。 ・看護の専門知識および専門領域に隣接する諸科学の知識を有している。	・現代において求められる汎用的技能を身につけている。 ・健康を維持・増進するための基礎的技能を有している。 ・安全で適切な看護を提供するための専門的技能を有している。 ・看護学に関する課題について、先行研究や各種の資料を検索・情報収集し、分析できる。	・現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。 ・看護学に関する課題について、先行研究や各種の資料を検索・情報収集し、分析した成果を表現できる。 ・高い倫理観をもち、対象が抱えている健康問題の本質を多角的視点から論理的に思考・判断できる。 ・他者の意見を受け入れる柔軟な思考もち、自らの意見を適切に表現することができる。	・異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。 ・健康・医療に関する諸問題に主体的に取り組む力を身につけている。 ・人々の健康の維持増進、生活の質向上のために、多職種と連携する基礎的な力を身につけている。

取得免許・資格	看護師国家試験受験資格					保健師国家試験受験資格 養護教諭二種免許状★ 一種衛生管理者★	養護教諭一種免許状
4年次		・リーディングIII*		・保健医療福祉政策論II*	・卒業研究 ・看護管理論 ・生態機能看護学III* ・統合実習 ・精神看護学実習 ・成人急性看護学実習 ・成人慢性看護学実習 ・老年看護学実習II ・小児看護学実習 ・女性看護学実習 ・在宅看護学実習	・公衆衛生看護学II** ・公衆衛生看護学III** ・公衆衛生看護技術論I** ・公衆衛生看護技術論II** ・組織協働活動論** ・公衆衛生看護ｱｾｽﾒﾝﾄ論II** ・公衆衛生看護管理論** ・公衆衛生看護学実習I** ・公衆衛生看護学実習II**	・教職実践演習(養護教諭)*** ・養護実習事前事後指導*** ・養護実習** ・生徒指導論A***
3年次		・Advanced English Achievement*		・保健社会調査論* ・臨床心理学*	・ケアリング論 ・看護研究 ・精神看護学演習I・II ・成人看護学演習I・II ・老年看護学演習I・II ・小児看護学演習I・II ・女性看護学演習I・II ・在宅看護学演習I・II ・看護教育学* ・看護実践論 ・キャリア像確立講義II* ・専門看護学ゼミ ・家族看護学	・公衆衛生看護ｱｾｽﾒﾝﾄ論I** 保健師サブコース	・学校保健学*** ・健康教育論*** ・教師論***
2年次	人文科学、社会科学、自然科学、総合科目の全31科目より選択	・リーディングII ・ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝIII ・コリア語II-(1)・(2)* ・中国語II-(1)・(2)* ・仏語II-(1)・(2)* ・独語II-(1)・(2)* ・社会人基礎力演習*	・データベース論* ・情報ネットワーク論* ・問題解決演習* ・日本語ライティング*	・疫学* ・保健統計学 ・健康科学*** ・精神保健学* ・東洋医学概論 ・保健医療福祉行政論I	・病態看護学I・II ・看護薬理学 ・生態・病態看護学実験 ・シンプトンマネジメント論 ・フィジカルアセスメント論 ・看護過程 ・看護倫理学 ・精神看護学概論 ・精神看護学 ・成人看護学概論 ・成人急性看護学 ・成人慢性看護学 ・老年看護学概論 ・老年看護学 ・小児看護学概論 ・小児看護学 ・女性看護学概論 ・女性看護学 ・在宅看護学概論 ・在宅看護学 ・公衆衛生看護学I ・チーム医療論 ・災害看護学 ・国際看護学* ・医療安全 ・看護情報学＊ ・基礎看護学実習 II ・老年看護学実習 I		・養護概説*** ・特別の支援を必要とする子供の理解*** ・教育課程編成論*** ・道徳教育A*** ・特別活動・総合的な学習の時間*** ・教育方法論***
1年次		・リーディングI ・ライティング ・ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝI・II ・コリア語I-(1)・(2)* ・中国語I-(1)・(2)* ・仏語I-(1)・(2)* ・独語I-(1)・(2)* ・海外語学実習事前指導* ・海外語学実習* ・Introduction to Studying in English ・情報処理演習I ・情報処理演習II*** ・教養演習	・不登校・ひきこもり援助論* ・子供学習支援論* ・プレインターンシップ* ・専門職連携入門*	・遺伝学* ・栄養学 ・保健社会学 ・公衆衛生学	・生態機能看護学I・II ・看護生化学 ・感染・免疫看護学演習 ・基礎看護学概論 ・基礎看護技術論 ・キャリア像確立講義I* ・基礎看護実習 I		・教育学概論B*** ・教育と社会・地域*** ・発達心理学I-A*** ・憲法*** 養護教諭サブコース
	教養科目	**基礎科目**	**全学横断型科目**	**看護学部専門基礎科目**	**看護学部専門科目**		
	全学共通科目						

アドミッション・ポリシー

1．高等学校等で履修した教科・科目について、基礎的な知識・技能を有している。　2．情報をもとに分析する技能を身につけている。　3．論理的に思考し、判断することができる。
4．自らの考えを適切に表現することができる。　5．様々な課題について主体的に取り組む姿勢がある。　6．多様性を尊重し、多様な人々と協働して取り組むことに意欲がある。

注1)掲載している科目は一部である。
注2) *は選択科目である。
注3) **は選択科目のうち、保健師サブコースにおける資格必修科目である。
注4) ***は選択科目のうち、養護教諭サブコースにおける資格必修科目である。
注5) ▭ は実習科目である。
注6) ⬚ は看護学部の科目以外の養護教諭資格必修科目である。
注7) ★は保健師免許取得後に、申請により取得できる資格である。